

令和5年2月28日  
兵庫県企画部万博推進室

# SDGs体験型地域プログラムの第一次認定について

# 第一次認定の対象となるプログラム

- 強化募集期間終了後も年内までに応募のあった**120件のプログラム**を対象

## 地域別件数

地域	件数
摂津	32
播磨	50
但馬	12
丹波	17
淡路	9

## 分野別件数

分野	件数
震災復興	4
自然・環境	30
農林水産	13
食	12
経済・地場産業	32
文化・芸術	29

申請件数  
**120件**

※R4.12末時点

第一次対象  
**118件**

- 1件の申請だが、明確に内容が区分されているものを2つのプログラムとして整理
- 所属組合の申請内容に含まれるため、同一のプログラムとして整理
- 申請の取り下げ：2件

# 認定に当たっての考え方

- ① プレイヤー自身が発信することも重要視しているため、**意欲があるものを幅広く認定。**
  - 意欲が有る限り、県が伴走型で支援を行うことが基本姿勢。
  - 認定基準に未達の項目は、原則、磨き上げで対応。足りていない基準として、認定通知で明記。
- ② 支援の内容が定まらないもののみ、**認定を見送る。**
- ③ プログラムの継続や県と協力した取組が困難になった場合には、**認定を取消す可能性あり。**

## 1. 認定プログラムの構成

### (1)基準を満たしたものを、**全て認定する。**

- ①ひょうごフィールドパビリオンの展開趣旨にふさわしいか
  - ア) 各地域に根差したストーリーや稀少性、独自性など
  - イ) 地域や社会の諸課題を解決し、未来志向型の成果を探求
  - ウ) 事業の継続性や地域の持続可能性
- ②プログラムのブラッシュアップや周辺他プログラムとの連携
- ③社会通念上、懸念があるか。

### (2)基準を満たしたものを、**プレミアとして選定**

『各地域の風土・文化との親和性』や『事業の持続可能性』から地域の核となるもの

### (3)未達の項目があるプログラム

『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるもの

## 2. 認定外・対話を継続して再チャレンジ可能

# 第一次認定について

## 認定プログラム：113件

### 地域別件数

地域	件数
摂津	28
播磨	49
但馬	13
丹波	15
淡路	8

### 分野別件数

分野	件数
震災復興	4
自然・環境	30
農林水産	13
食	12
経済・地場産業	30
文化・芸術	24

### 認定を見送る：5件

- 主な場所が県外
- 企画が十分に練られていないプログラム
- 近隣プログラムのオプションが展開に適しているプログラム
- 娯楽プログラム 等



### 14. Asagoで暮らす旅～Travel like you live here～（朝来市）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・朝来は鉱業により日本の近代化を牽引してきた街。**生野銀山**や**神子畑選鉱場**などの産業遺産がその名残を伝える。しかし、内陸部の中山間地として、人口減少や高齢化が深刻化。
- ・本プログラムは、そんな朝来に残る日本の原風景に魅せられ、南アフリカから移住してきた双子の兄弟を中心に、**往事の銀山官舎を改修したゲストハウス**を拠点に、**環境負荷のない電動アシスト自転車**で**地域を巡り、その道中で行う収穫体験や郷土料理の調理体験**を通じて、地域に暮らす人達とふれあうもの。
- ・国際交流や地域活性化の取組みにより、地域に暮らす人達が地域の価値を再発見し、地域の持続可能性への思いを新たにしている取組みである。

概要：日本遺産「銀の馬車道」「鉱石の道」の起点である生野にある鉱山職員の社宅であった空き家（古民家）を再利用した宿泊施設「IKUNO Stay」に滞在し、二次交通として炭素を排出しないE-Bikeを利用して地域の人々を訪ね、収穫体験、お茶会、田舎料理体験など「本物」の田舎暮らしを味わう。

実施主体：朝来市観光協会



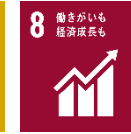
▲ガイドが先導して案内



▲サイクルガイド



▲朝来市生野地区の町並み



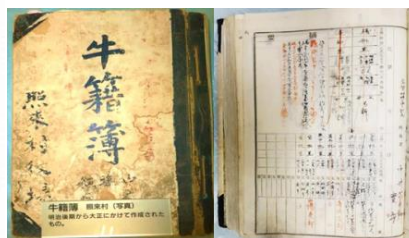
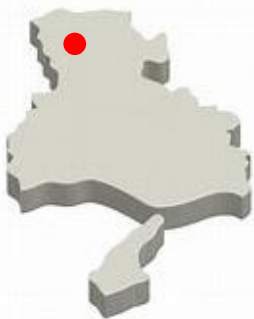
### 69. 「和牛のふるさと」ルーツを訪ねて（香美町）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・いまや世界のおいしい牛肉の代名詞「和牛」のルーツは兵庫県但馬の山村「小代」のおじろ但馬牛。但馬牛は元々農業を助け、子牛が産まれば売って収入をもたらし、地域の人々は家族同然に取り扱ってきた。
- ・しかし、肉食文化が普及するなか、大型の外国産牛と掛け合わせられ、遺伝的絶滅の危機を迎えた。その但馬牛を肉質の良い純血種の和牛として現在に伝えるのが、山深さゆえ純血のままで残っていた小代の但馬牛。日本全国の黒毛和牛の実に99.9%が小代で生まれた田尻号という但馬牛の子孫であるといわれる。
- ・全国に先駆けて牛籍簿を整備。これが血統登録の基礎となり、全国の和牛改良の先頭に立つ地域となる。
- ・また、但馬地域では春～秋にかけて牛の自然放牧を行う。自然放牧のための草原の維持や耕作放棄地の解消を通じて、地域の土壌の豊かさや生物多様性の保全に貢献している。本プログラムは、そうした一連の取り組みを学べるものとなっている。

概要：山間地域の農耕作業において、大切にされてきた但馬牛と一緒に歩んできた暮らしぶりを、住民自らが案内し、訪問者に伝え、体験することにより、他地域にはない特徴をもった地域の魅力を発見し、その地域で暮らすことの誇りへとつなげていく。

実施主体：香美町小代観光協会



▲牛籍簿



▲牛の神様を祀る大日堂



▲但馬牛



▲うへ山の棚田



### 33.坊勢島 漁業見学&体験ツアー（姫路市）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・瀬戸内海に浮かぶ家島諸島は、**漁業の島**。近海の穏やかな里海で培われた暮らしが根付く。家島が浮かぶ瀬戸内海は、約60年前に急速な近代化の過程で、工場や家庭からの排水によって深刻な水質汚染に。
- ・沿岸府県のあらゆる水質改善の取組みにより、約20年前には美しい瀬戸内海が取り戻されたが、水質が美しくなりすぎたがゆえの栄養塩不足に陥り、漁業資源が減少する「**痩せた海**」となってしまった。
- ・加えて、気候変動に伴う海洋生物の生息環境変化により、海の生態系も変化しつつある。本プログラムは、**海で起きている諸課題を、最先端で立ち向かう島の漁師達から直接学ぶ**ことができるもの。海底を耕運して海水中の栄養塩濃度を高めたり、資源増殖のために栽培漁業に積極的に取り組む彼らの取組みは、海とともに生きる人達のヒントとなる。

概要：坊勢漁業協同組合の漁業見学船「第八ふじなみ」を活用し、海上で漁業見学を行うとともに、漁師から魚の変遷や海洋保全活動について話を聞く。併せて、家島諸島のクルージングや、資源管理型の漁業として中間育成施設など島の漁業施設見学なども実施している。

実施主体：坊勢漁業協同組合



▲第八ふじなみ



▲定置網漁法



▲漁師の説明



▲養殖施設



### 44.酒で旅する播磨 Discovered Harima through Sake（加西市、加東市ほか）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・日本酒発祥の伝承がある兵庫は、**全国シェア約30%の日本最大の清酒産地**。かつては灘の酒が江戸の酒の8割を占めたとも。酒造りに大切な要素は米・水・杜氏。その酒米の王者と呼ばれる「**山田錦**」は兵庫県が約90年前に品種開発し、最大産地として**全国500以上の酒蔵に供給**するトップブランド。
- ・この山田錦の生産に最適の土壌や気象条件を備えたのが兵庫中部の**北播磨地域**。近年の温暖化にも対応する、高温にも対応した酒米「hyogo sake 85」の開発にもチャレンジ。
- ・本プログラムは、北播磨地域で**米づくりから酒づくりまで一貫した地産地消の取組を、実際に携わる人から直接学べるもの**。米づくりに欠かせない陸の豊かさを守る取組や、酒造りの工程で発生する米粉や絞りかす等の残渣の有効活用など、日本酒が出来上がるまでの過程には、数多くのSDGsが秘められている。

概要：酒米を育てる土壌や、その地域でしか採取できない水など、日本酒は地域の風土が溶け込んだ飲み物であり、日本酒を通じて地域の風土を体験する旅を行う。具体的には、農家による山田錦栽培の話、酒蔵での酒蔵見学や農家支援の話など、陸地が育む豊かさを知るとともに、環境保全や住み続けられるまちづくりへの取組を知る。

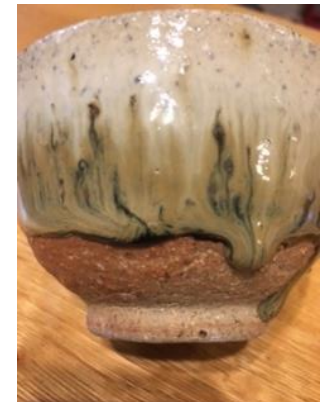
実施主体：株式会社みたて



▲富久錦（出展：富久錦HP）

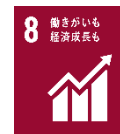


▲ふく蔵（出展：ふく蔵HP）



▲東条秋津窯の酒器





### 53. 新発見！デザイナーtamaki niimeによる播州織のものづくり体験（西脇市）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・約170年前に、農閑期の副業対策として兵庫の真ん中、西脇市周辺で定着した**播州織**。糸の段階で染色してから織り上げる先染め綿織物は、地域を流れる清流加古川の軟水に育まれ発展。戦後の**経済成長期**に地域経済を牽引する繊維産業として、世界中の有名ブランドに生地素材を供給してきた。
- ・しかし、アジア諸国の経済成長に伴い、繊維業界の活力は失われ、廃業が相次いだ。そこで**高付加価値化への転換**を進め、**地域ぐるみで若手デザイナーを受入れ、斬新な発想による商品開発の取組**が進められた。
- ・引き続き、業界規模の縮小は続いているが、デザイン性の高い最終製品の供給により、高付加価値化や産地の認知度向上、業界の活性化は着実に進んでおり、産業構造変化や後継者不足に悩む、**他の産地にとってもヒントとなる取組み**である。本プログラムの提供者である玉木新雌氏はこうした地域の動きに先駆けて、デザイナーとして西脇に移住し、最終製品販売を世界展開する第一人者である。

概要：耕作放棄地などを活用した綿花栽培にはじまり、一点モノを大量生産するコンセプトに基づいた創意工夫や付加価値の向上を図るための生地づくりから製品になるまでの全工程が見られる工場見学のほか、縫製加工（ショールの縫製・カット・タグ付け）の「体験型」ワークショップ等を実施。

実施主体：有限会社玉木新雌



▲工場外観



▲先染めされた糸



▲オープンな工場

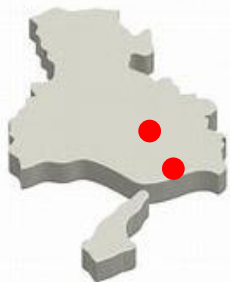
### 98. 防災ツーリズム推進事業（神戸市、三木市ほか）

#### 【発信できるテーマ性】

- ・ 1995年1月17日、兵庫を突如襲った阪神・淡路大震災。近年まれに見る都市直下型地震により、神戸は壊滅的な打撃を受けた。この自然災害から立ち直る過程で提唱されたのが「**創造的復興**」。
- ・ 単に震災前の状態に戻すのではなく、21世紀の成熟社会にふさわしい復興を成し遂げる、という理念が込められた創造的復興は、その後、**東日本大震災や熊本地震でも提唱**され、2015年仙台で開催された第3回国連防災世界会議でも仙台防災枠組の一つとして、2030年までの行動目標に採択。阪神・淡路大震災を契機に、兵庫では自然災害に対する日常的な備えが浸透し、社会的仕組みが整備された。
- ・ 本プログラムはそうした**兵庫が得た教訓を、実践も含め学べる**もの。兵庫が世界各地で自然災害や戦災からの復興に立ち向かう国に対し、教訓をヒントとして提供することは、創造的復興過程で兵庫が国内外の各地から受けた支援に対する最大の恩返しである。

概要：人と防災未来センターや広域防災センター、E-ディフェンスなど国内随一の防災学習・研究拠点に震災遺構等を加えた防災関連資源と、周辺の観光資源を組み合わせた体験型ツアーを実施することで、「防災意識の向上」と「地域の活性化」の両立を図り、阪神・淡路大震災からの「創造的復興」「防災先進県ひょうご」としての取組を全国及び海外に発信する。

実施主体：兵庫県危機管理部



▲人と防災未来センター



▲広域防災センター



▲観光資源の例（播州織）

# 今後の流れ：プログラムの磨き上げ

- 認定したプログラムは、**国内外からの誘客が可能な魅力的なプログラム**になるよう、プログラム提供者やサポート人材への研修、商品化支援などの**磨き上げ**を行い、受け入れ体制の向上に取り組んでいく。

## 認定プログラム（第一次認定：113件（R5.2.28））

※万博開催まで募集・認定を継続

## **伴走型の支援を行い、国内外からの誘客が可能な魅力的なプログラムに仕上げる**

### 伴走型支援でプログラムの磨き上げ

#### (1) サポート人材の発掘

認定プログラムをサポートする人材を発掘するための説明会等を開催

#### (2) 人材育成研修

##### ① プログラム提供者研修

説明力向上研修、来訪者受入研修（多言語対応・キャッシュレス対応）など「おもてなし力」の向上を図る研修を開催

##### ② サポート人材研修

各プログラムに対応したランドオペレーター等観光関係者や通訳案内士等（サポート人材）を育成する研修を開催

#### (3) 商品化支援

##### ① プロモーションプロデューサーの設置

効果的なプロモーションに向け、専門家を招聘。ターゲティング設定、ターゲット別のブランディングを実施

##### ② インバウンド対応に向けたアドバイザーの派遣

インバウンド目線による磨き上げを行うため、外国人アドバイザーを派遣

##### ③ モニターツアーの実施

各プログラムの課題を把握し、誘客に向けた必要な取組を洗い出し、改善するためのモニターツアーを実施